

西濃運輸株式会社

SVF と RDE 採用で開発生産性と管理性の高い帳票システムを実現 利用する現場担当者の評価も高く今後のパッケージ販売にも期待

Interview



写真左から

セイノーホールディングス株式会社
西濃運輸株式会社
取締役 情報システム部担当
森田 俊隆氏

株式会社セイノー情報サービス
第二開発部 次長
五藤 秀寿氏

Company Profile

西濃運輸株式会社

設立: 1946年11月1日 (昭和21年)

所在地: 岐阜県大垣市

事業内容: “意思決定の迅速化”や“経営の効率化”を推進し、企業統治を強化、より一層の効率企業集団となることを目指した全社統一スローガンを「自立」とし、輸送事業、自動車販売事業、不動産賃貸事業などを多角的に展開している。

URL: <http://www.seino.co.jp/>



物流システム再構築を機に帳票システムをオープン化したい

開発の最小化と荷主様指向の物流サービスを推進

変化の激しい物流業界に対応する柔軟な IT 化の推進が不可欠

「会社を発展させ、社員を幸福にする」。この企業理念のもと、輸送事業、自動車販売事業、不動産賃貸事業などを多角的に展開する西濃運輸。「時・気を逸さない」「衆智を集め即効に徹する」をグループ会社の合言葉に、顧客満足度の向上を目指している。また、経営資源をフルに活用し、「ムリ・ムダ・ムラ」の排除に努めることで経営の効率化を推進している。こうした西濃運輸の取り組みは、物流業界が大きな転換のときに来ていることに起因している。西濃運輸の取締役 情報システム部担当である森田 俊隆氏は、次のように語る。「ガソリン代の高騰、駐車違反の取締強化、労働基準法の改正など、人件費をはじめとするコストが向上。その一方で、物流業界は参入障壁が低くなったことから外資系や小規模な業者などが参入、さらに郵政省の民営化など、価格競争が激化。利益の確保が困難になっている」

「これまで物流業界はあまり IT 化に積極的ではなかった」と森田氏。しかし、コストの上昇や価格競争が激化した今日、IT 化による業務の最適化は避けて通れない道。コスト削減は全分野的に進めなければならない課題だが、情報システム部門は、紙出力の削減と紙出力に伴う作業アイドル・タイムの圧縮という観点から貢献でき、更には出力帳票作成に伴う開発コストの削減につながる。西濃運輸は、ホストマイグレーションに取りかかり、これと時期を同じにして、SVF と RDE の組み合わせによる物流システムの再構築を実施した。

分散した帳票システムの統合と帳票出力の高速化が課題に

西濃運輸では、ホストマイグレーションの一環として、IBM のビジネスサーバ [IBM System i] を導

入。オープン化によるコスト削減を機に、災害対策としてシステムの 2 重化を実現すると共に、あらたな物流システムの再構築もあわせて実施した。この物流システムは、同社が管理する全国の物流センターのうち、22 拠点が対象となるもので、2006 年 11 月にカットオーバーした。同社では当初、セイノー情報サービスが IBM System i をベースにクライアント/サーバ型で構築したパッケージシステム [SLIMS-WH] を採用。物流システムから送り状伝票や請求書など、さまざまな帳票を出力していた。SLIMS-WH では、3 つの帳票システムを管理。スプール印刷のほか、ユーザーからの納品書や特種フォームなどのカスタマイズ要求に容易に対応することを目的に、クライアント側にも 2 種類の帳票エンジンを搭載。クライアント側では、連続帳票と単票の出力を分けて実現していた。

セイノー情報サービスの第二開発部次長である五藤 秀寿氏は、「IBM System i 側のプリント処理は、それほど難しなかったが、クライアント側の出力処理が困難だった。特にパフォーマンスが問題で、たとえばひとつの帳票を出力するために 10 ~ 20 分を要することもあった」と話す。課題解決に頭を悩ませていたとき、ユーザー企業から「ユーザー側でフォーム様式の変更を行いたいのので、帳票運用システムには SVF と (RDE の前身である) Report Director (RD) を使ってほしい」という要望があった。五藤氏は、「SVF の導入で容易な帳票作成と出力パフォーマンスの問題は解決し、RD により 3 つの帳票エンジンを統合できる。ただ、RD の発想は良かったが、センター側での一括管理ができず、拠点ごとに RD を導入する必要があるため管理性やコストの面で問題が残っていた」と話す。

ちょうどそのころ、RDE の登場により、これらの問題は一気に解決する。セイノー情報サービスでは、西濃運輸の物流システム再構築においても SVF と RDE の組み合わせによる帳票運用システ

導入背景

- 帳票出力のパフォーマンス向上
- 3 つの帳票エンジンの統合管理

導入ポイント

- アプリ開発と帳票開発の分離
- 帳票データの一元管理
- 帳票の電子化

導入効果

- 開発生産性/メンテナンス性の向上
- インターフェイスと操作性の向上
- 帳票統合による管理性の向上
- 帳票電子化によるコスト削減

ムの採用を決定。UNIXサーバをベースにしたWebシステム型の新しいSLIMS-WHが誕生した。RDEを採用した理由として、帳票運用の一括管理が可能という理由のほかに、もうひとつ、Print Assistantと呼ばれる機能を搭載していたことが挙げられる。このモジュールを拠点ごとに導入することで、帳票サーバからクライアント側にデータを送信するときに、データを圧縮して送信するため帳票出力を高速化することができる。五藤氏は、「日本全国の拠点とつながるネットワーク上で流すデータはなるべく小さく、帳票の印刷速度はなるべく早いほうが良かった。これまでパフォーマンスに問題があったことから、この圧縮機能が非常に有効だった」と話している。

開発性とメンテナンス性の向上と電子化によるコスト削減を実現

SVFとRDEを採用したメリットは、帳票システムをひとつに統合できることと、アプリケーションから帳票システムを独立させることができること。これにより、アプリケーション開発においては、必要なデータ項目のみを意識すれば良く、帳票は独立して開発できるので、開発生産性はもちろん、メンテナンス性も向上する。

五藤氏は、「配送現場において、業務を効率化することを目的に、帳票のある部分の文字だけを大きく強調することで見やすくしてほしいという要望があった。SVFを導入したことで、従来応えることができなかった細かな要望にも容易に対応することができる」と話す。また、新システムを導入すると、配送現場から「使い勝手が悪くなった」などの苦情があるのだが、SVFとRDEを採用した新しいシステムでは、こうした苦情はほとんど無かった。逆に、「これまでより良くなった」という声もあるという。

そのほか、プリンタの機種に依存しないこともSVF導入の効果だ。SLIMS-WHでは、旧システムでは使えなかったプリンタも利用できるようになり、既存の資産の有効利用が可能になる。「さらに今回のシステム再構築では、余分な帳票を出力しなくすることには、徹底的にこだわっている」と五藤氏。現在、SLIMS-WHでは、物流システムだけで約130種類の帳票がある。この帳票の出力数を減らすことは、さまざまなコストの削減につながる。

今回のプロジェクトと並行して、SVFを使った請求書の電子化プロジェクトがSLIMS-WHとほぼ同時に稼働している。請求書の印刷から配送は、

これまで外部の業者に委託していたが、これを電子化することで、ユーザーが必要なときに必要な場所でPDFを出力できる。森田氏は、「現在、請求書は月間40～50万件配送している。電子化により請求書の印刷代や郵送料が不要になることから、非常に大きなコスト削減につながる。現在では、まだ全体の3%程度しか電子化されていないが、近い将来にはすべてを電子化したい」と話している。

“たかが帳票、されど帳票” 基幹システムの帳票統合を視野に

西濃運輸では今後、基幹システムの帳票統合も視野に入れている。「SVFは帳票を自由にカスタマイズできるので、システムに柔軟性を与えることができる。また、上場企業の90%が何らかの形で使用しているなど、帳票マーケットにおけるステータスが確立しており、将来性においても安心感がある」と五藤氏は言う。

また森田氏は「たかが帳票、されど帳票」という言葉が示すとおり、帳票とは奥深いもの。基幹システムの帳票出力をいかに最適化していくかが西濃運輸にとっての大きなテーマになっている。今後は、基幹システムの帳票出力もSVFベースの仕組みに移行しても良いのではないかと考えている」と意気込みを語っている。

今後、セイノー情報サービスではUNIX版とWindows版で稼働するSLIMS-WHをIBM System iに移植、さらなる拡販を計画している。

導入製品

SVFX-Designer

帳票開発の効率化と多様な出力要件に応える、高いデザイン機能を持つ次世代帳票開発支援ツール

Report Director Enterprise (RDE)

拠点に分散する印刷システムの集中化とホストプリンタに替わる大量帳票処理を可能にする統合スプールサーバソフトウェア

[Print Assistant]

RDEサーバから各拠点に対して、ダイレクトに印刷データを圧縮転送して帳票出力を実行

※SLIMS-WH:

SLIMS(Strategic Logistics Information Management System) -WH
株式会社セイノー情報サービスが開発した物流センター管理システム。帳票エンジンにSVFを採用。

システム構成

